今月の最優秀作品

12月提出の競書の写真版全作品は、12月17日（木）より本会ホームページに掲載いたします。

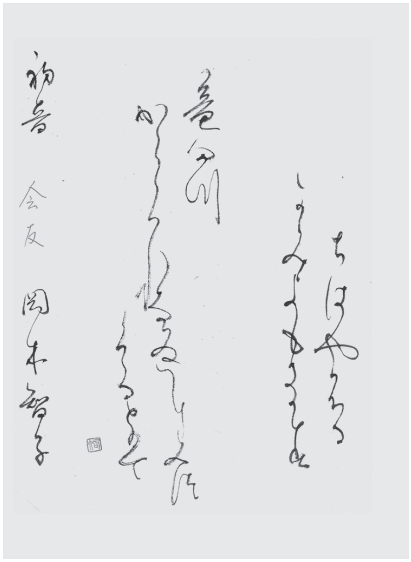
【漢字半紙】



書学　小林　美代子　百鍛千練、隷書体の基本である逆筆・扁平・波磔の熟達に加え背勢や線の濃淡、響きも自然に織り込んだ会心作。

（審査評　池田　知之）

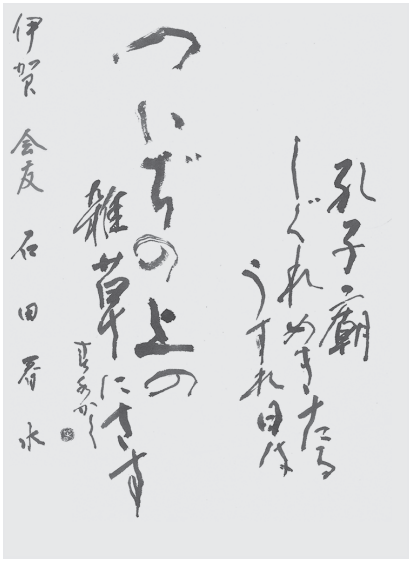
【かな半紙】



初音　岡本　智子　墨色美しく、無理のない自然な流れと構成で、特に三行目からの抑揚の効いた渇筆が作品の品位を高めている。

（審査評　野呂　詠雪）

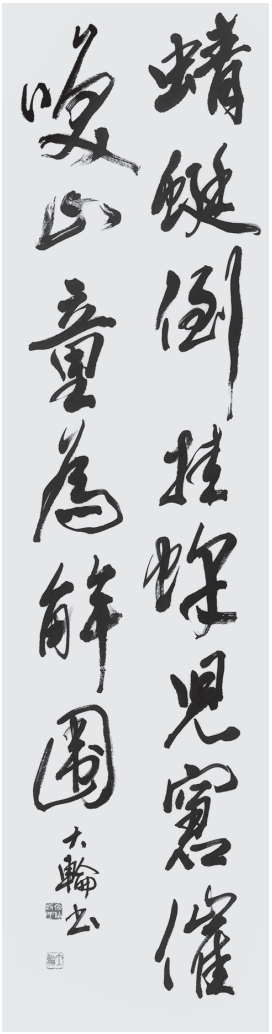
【新和様半紙】



伊賀　石田　春代　沈着な運筆で多彩な表現を駆使。墨色美しく行書と仮名の調和も見事でスケールが大きく見える作。

（審査評　吉家　桂雪）

【漢字条幅】



桑原　佐伯　政子　最優秀作品に準会友であるこの作品を選んだ。気を衒わず、濃墨で大小・潤渇・太細や余白・墨継ぎも無理のない真摯な秀作。

（審査評　永井　香樹）

【かな条幅】



書学　原地　桃香　開閉自在な筆が多様な表情の線を生む。渇筆部の行の揺れは自然で心地よく、落ち着いたまとまりを見せた作。

（審査評　川島　史子）

【新和様条幅】



采女　熊野　素心　濃い墨で線質も強く渇れも活きています。文節の空きが小気味よく、読みやすくして、明るい作。

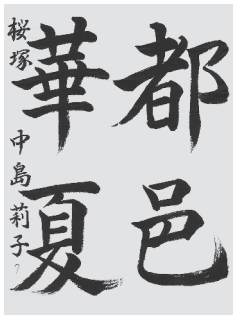
（審査評　東仲　遙邨）

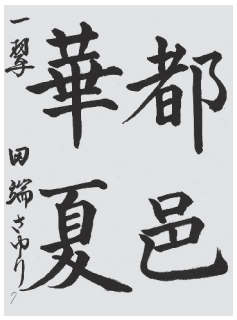
漢字半紙

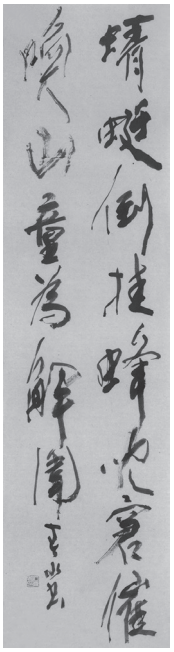


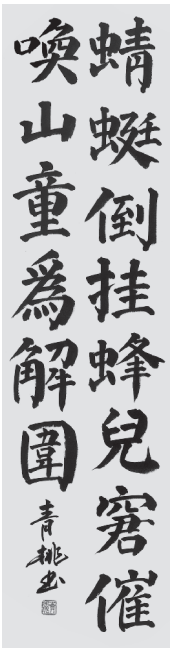


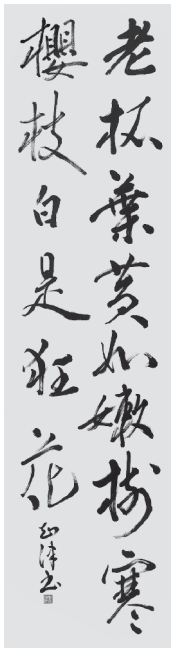
漢字条幅・漢字半紙

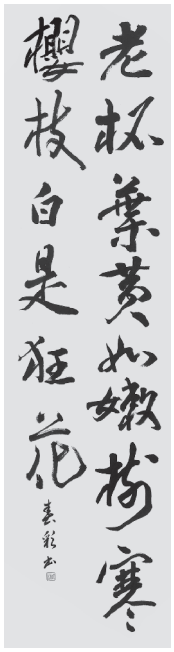

都邑
華夏
桜塚 中島莉子

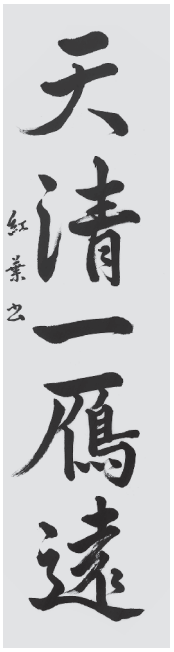

都邑
華夏
一琴 田端さゆり

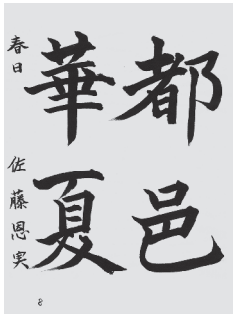

伊賀 石田 春代

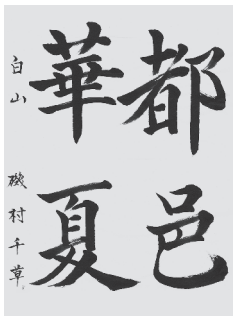

書学 海老原麗子


大井 竹藤知津子


あお 小島 玲子

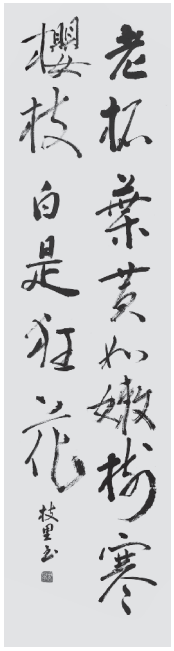

書学 垣坂 紅葉

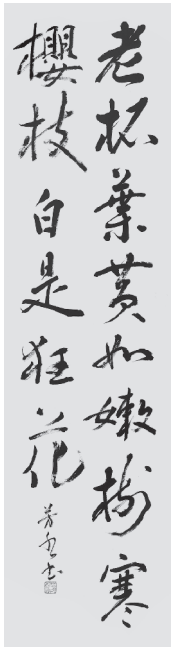

都邑
華夏
春日 佐藤恩実

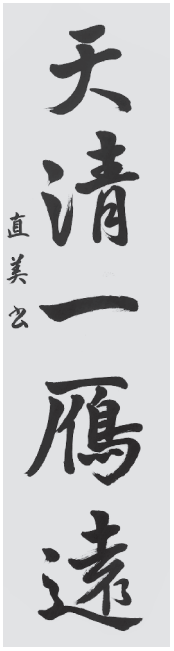

都邑
華夏
白山 磯村千草

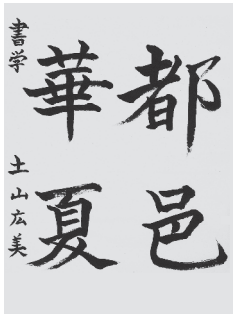

いち 榊原由紀子

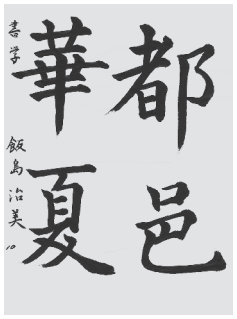

九書 井上 恵子

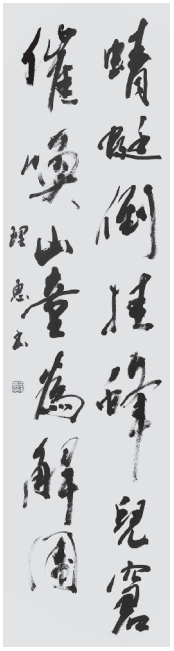

一倫 櫛田枝里子

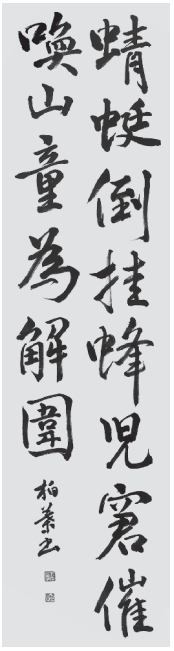

芳水 柴原かおる

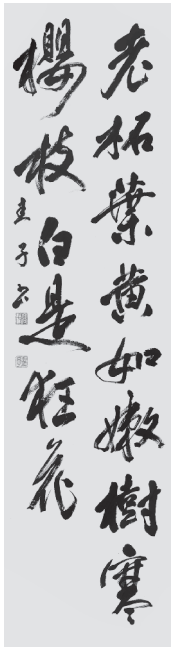

書学 今中 直美

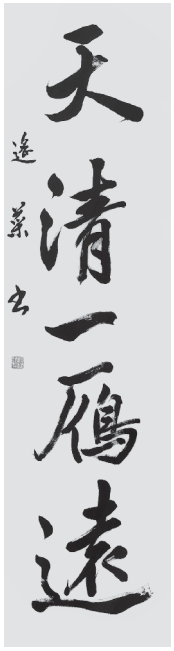

都邑
華夏
書学 土山広美


都邑
華夏
書学 飯島治美


九書 垣田 理恵


書学 小形久美子

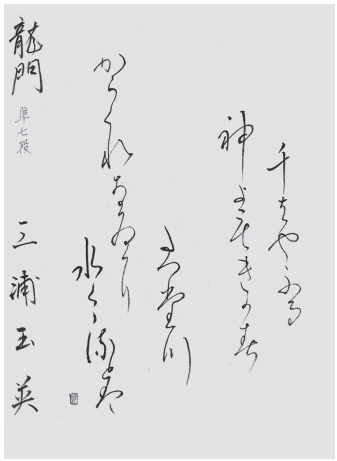

梧星 髙橋 圭子

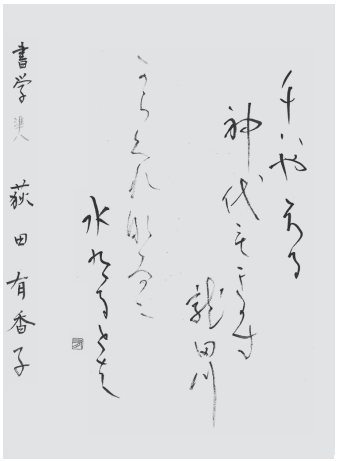

書学 神田 遥菜

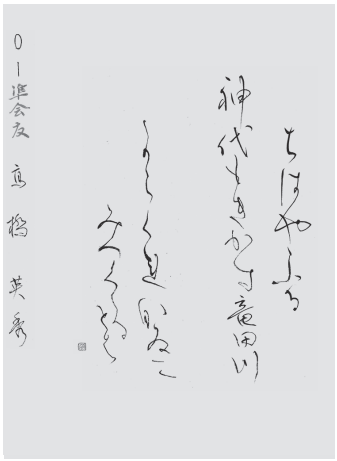

書学 飯野 優子

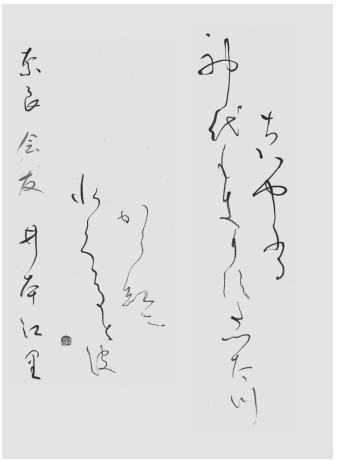
かな半紙

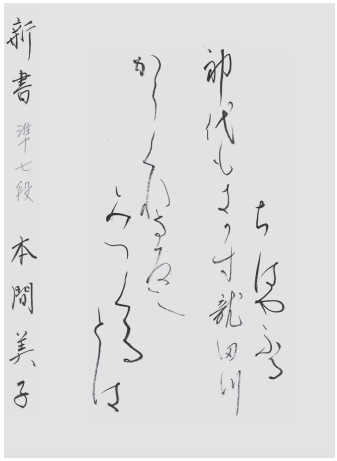
今月の優秀作品

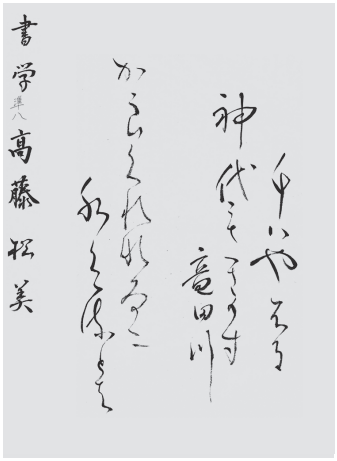


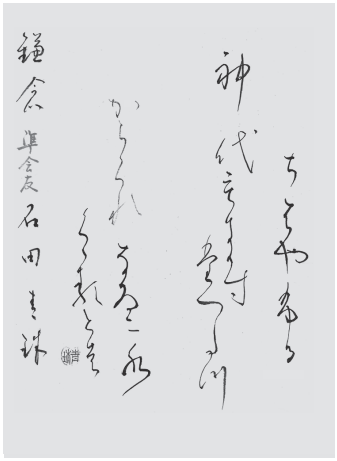


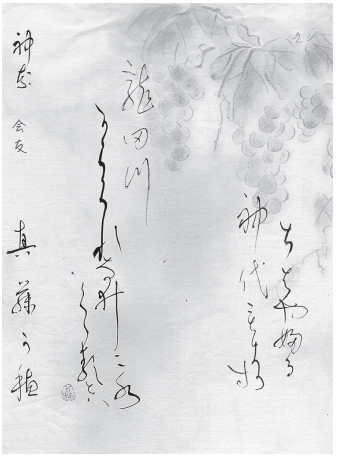


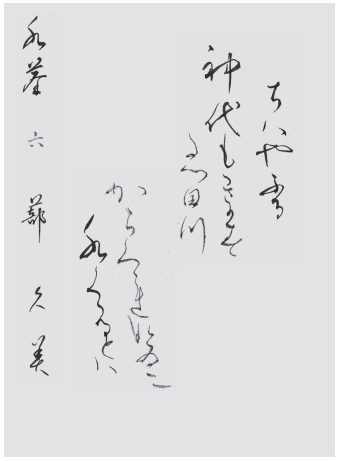


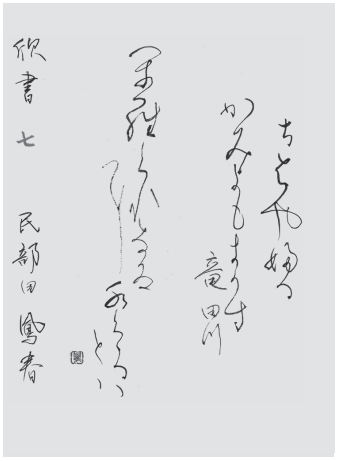


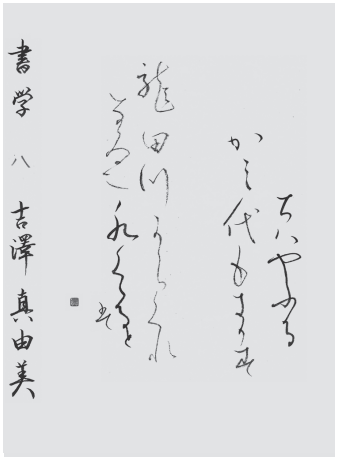


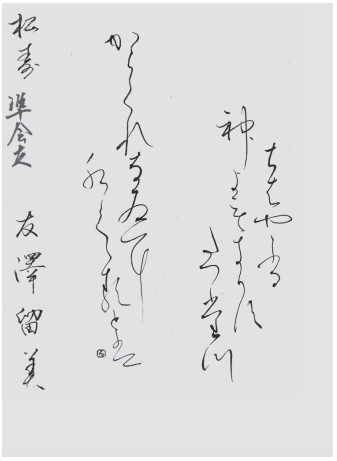


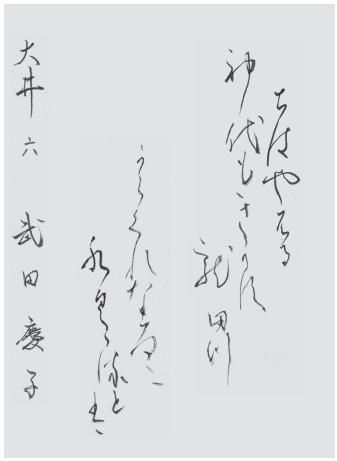


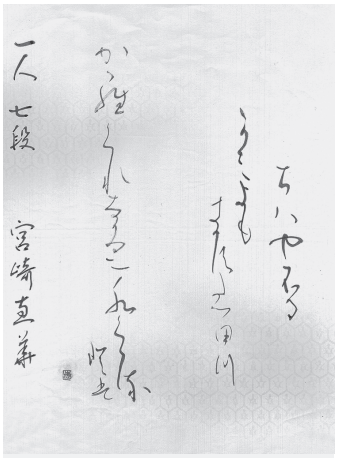


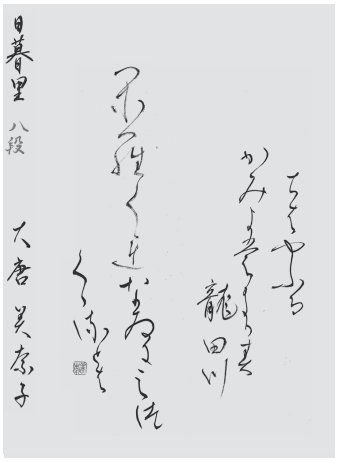


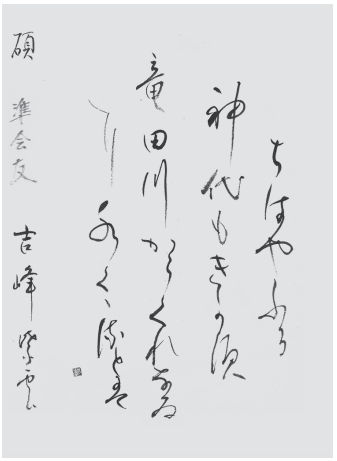




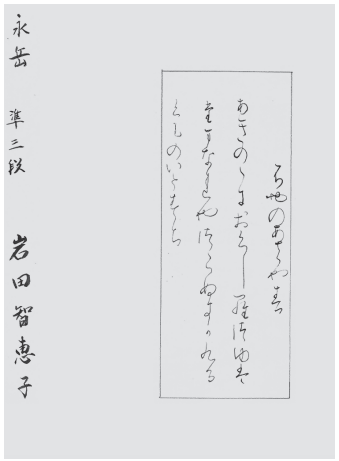


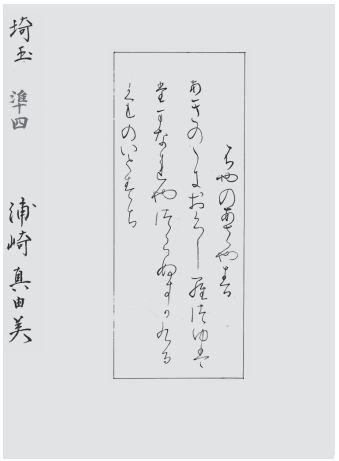


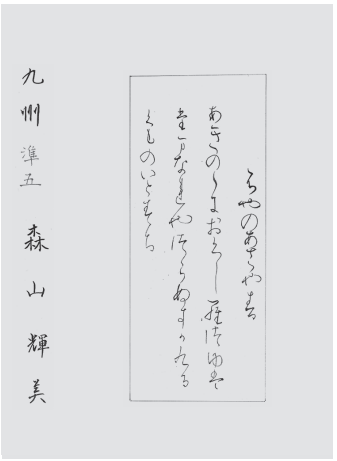


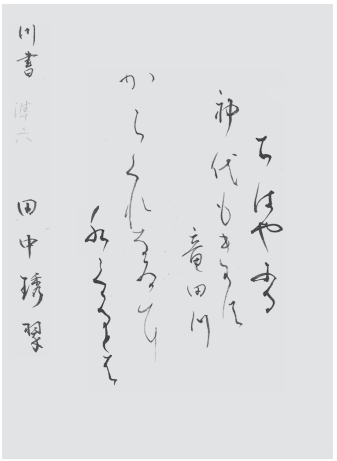


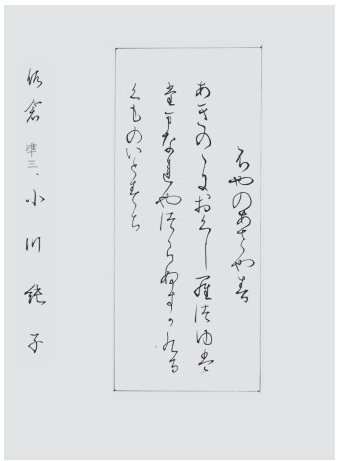
かな半紙

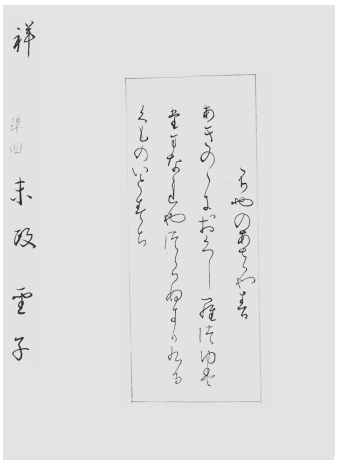

永岳 準三段 岩田智恵子

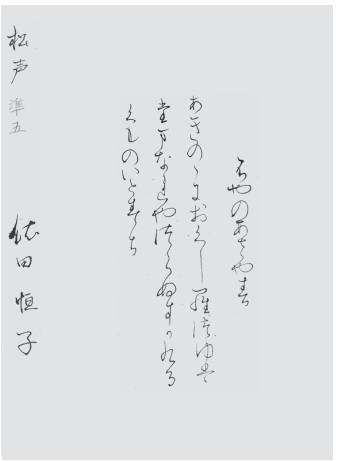

埼玉 準四 浦崎真由美

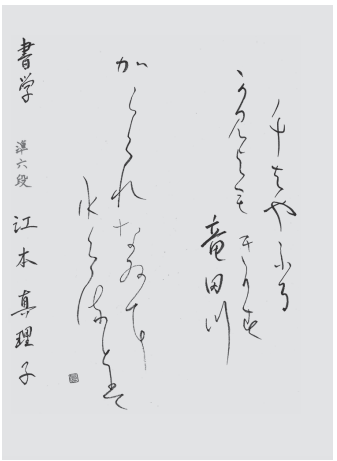

九州 準五 森山輝美

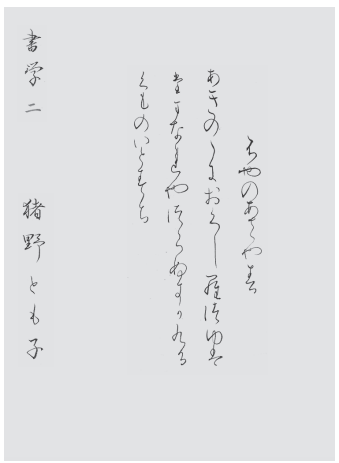

川書 準六 田中琇翠

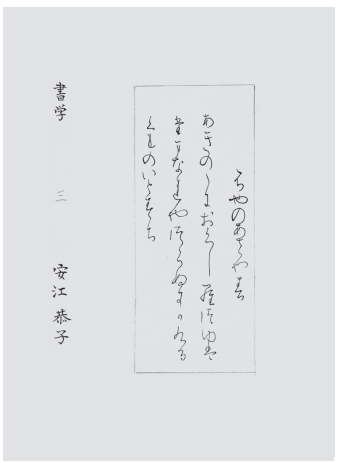

佑名 準三 小川純子

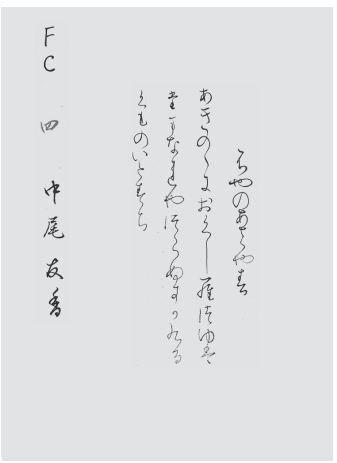

祥 準四 末政重子

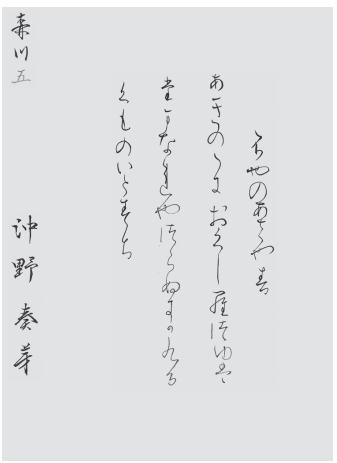

松声 準五 松田恒子

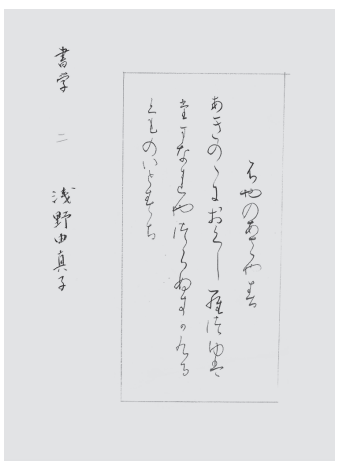

書学 準六段 江木真理子

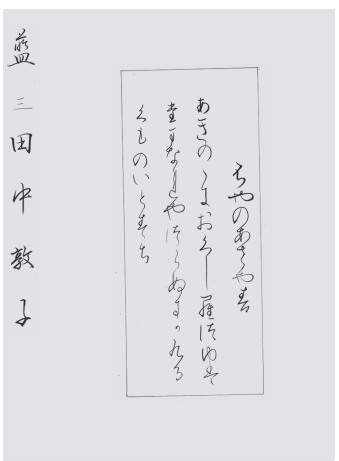

書学二 猪野とも子

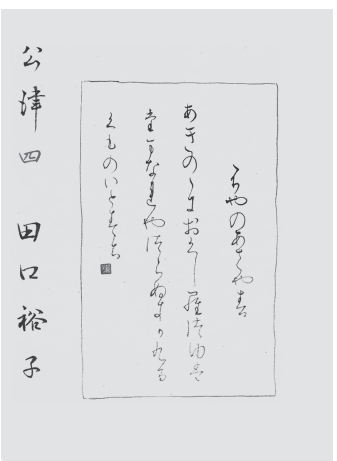

書学 三 安江恭子

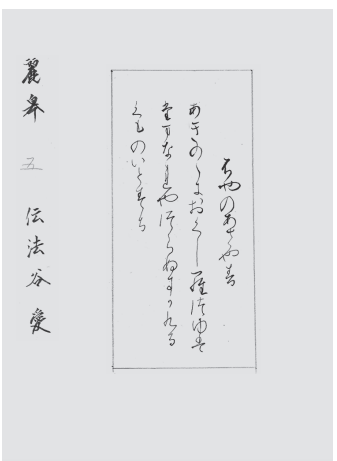

FC 四 中尾友子


乗川 五 沖野泰幸


書学 二 浅野由真子

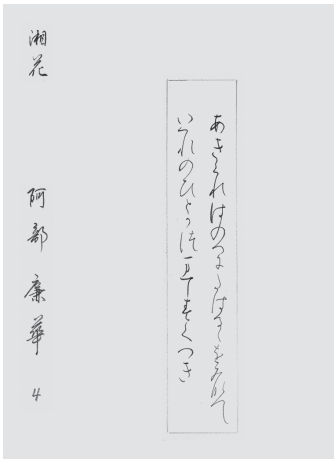

益 三 田中敦子

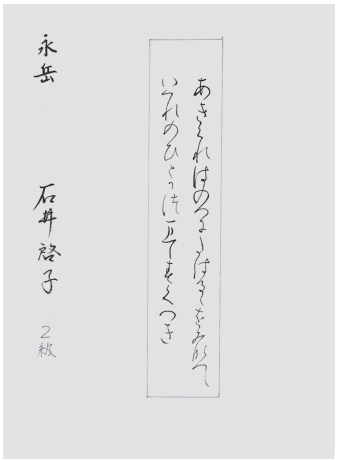

会津 四 田口裕子

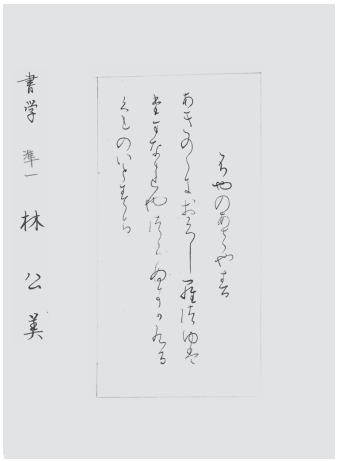

麗峯 五 伝法谷愛

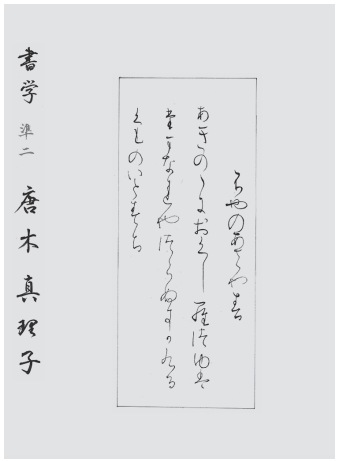
かな半紙

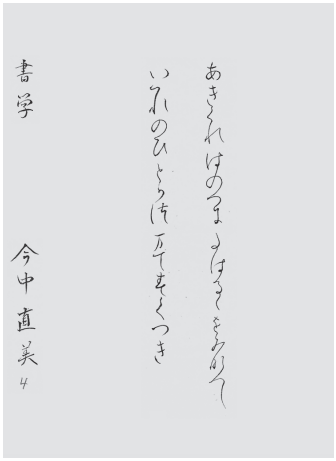
今月の優秀作品

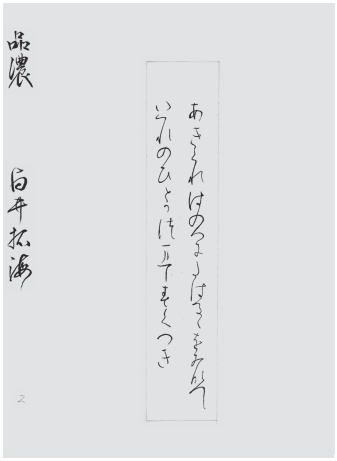


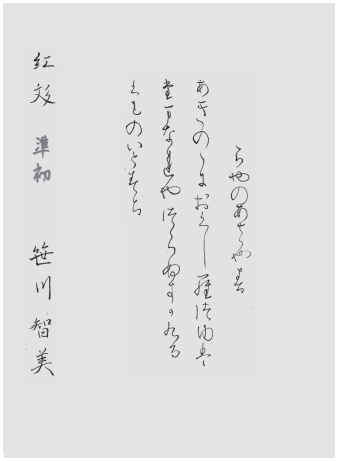


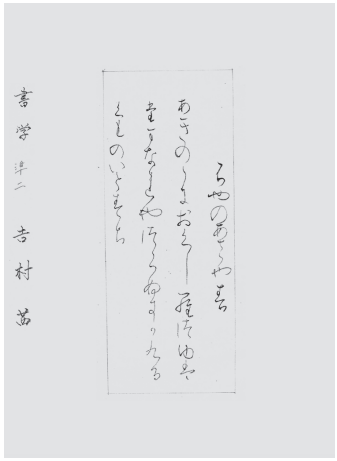


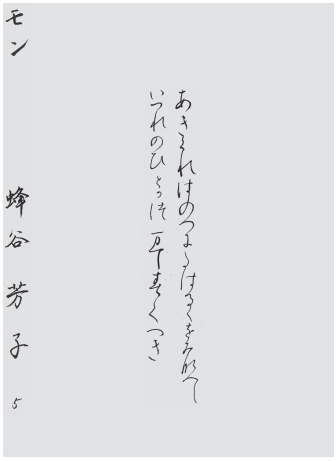


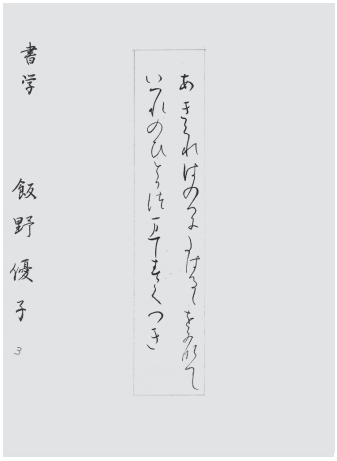


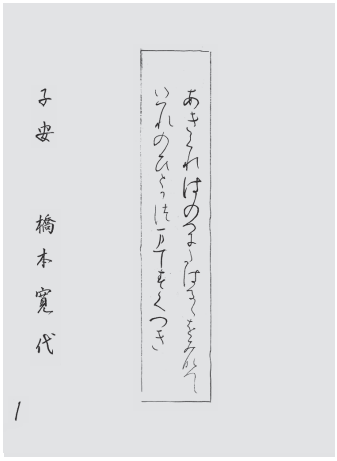


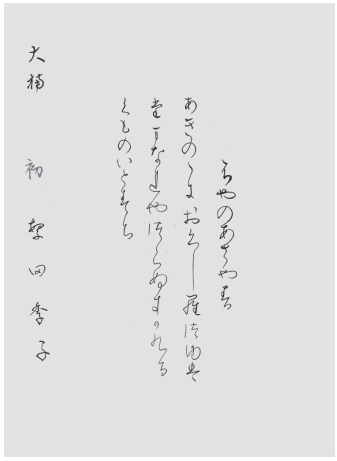


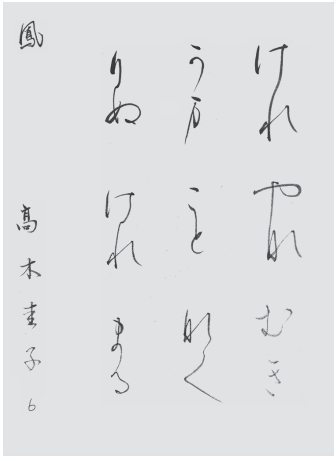


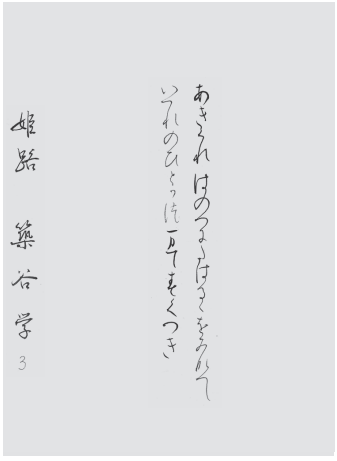


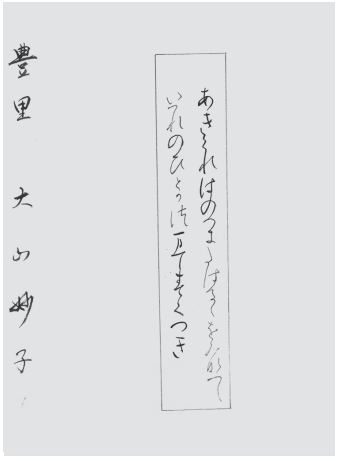


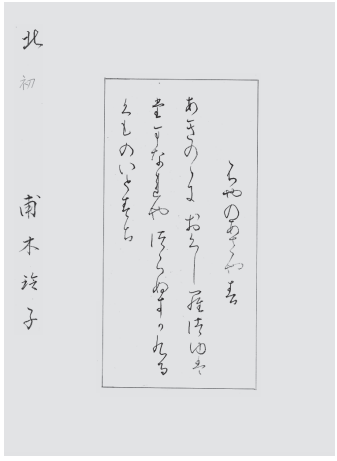




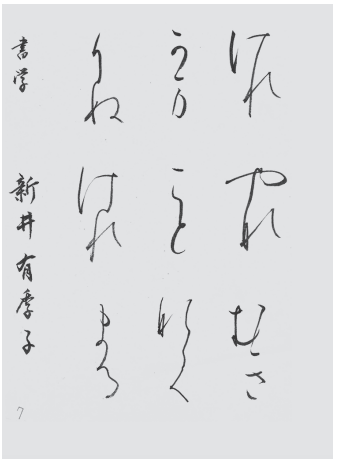


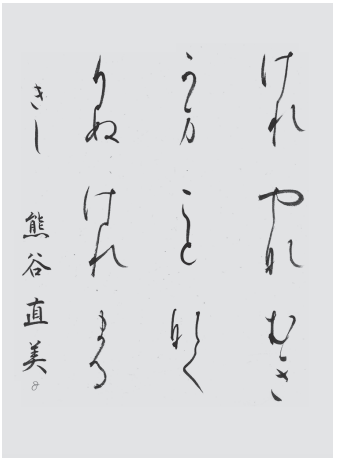


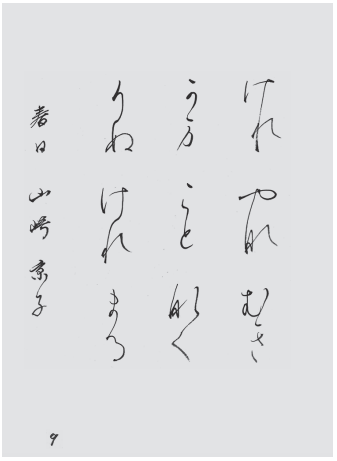


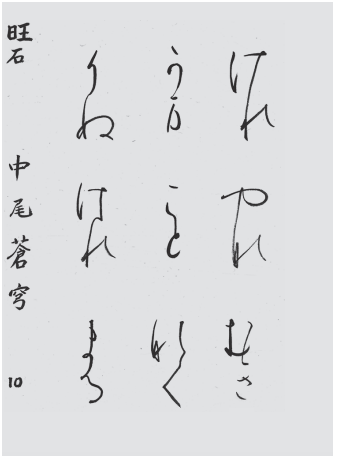


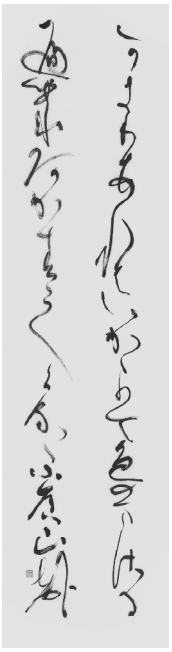
かな条幅・かな半紙

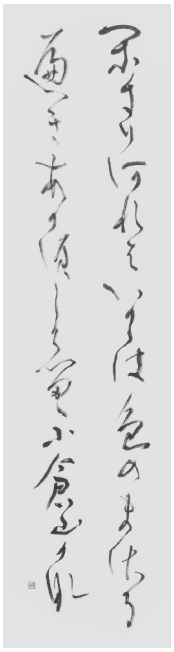

書学 新井有季子 7

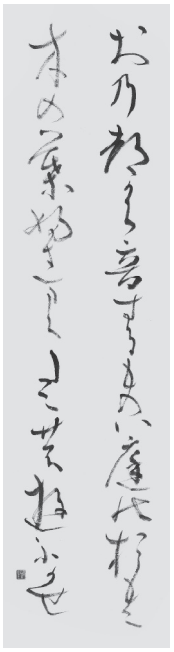

きし 熊谷直美 8

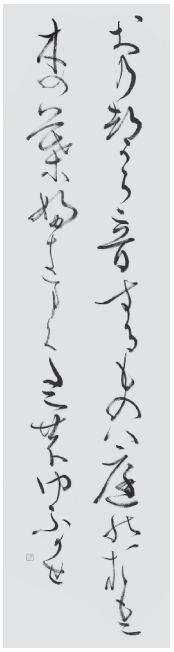

若日 山崎京子 9

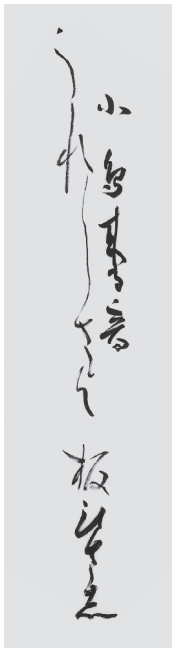

旺石 中尾蒼穹 10

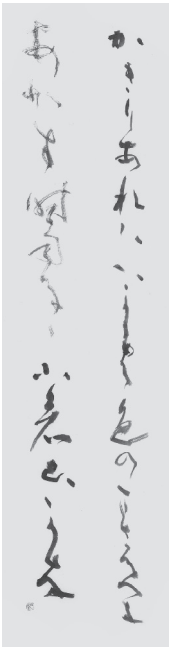

初音 岡本 智子

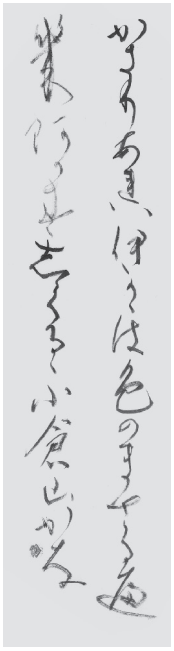

永岳 岡部 瑛心

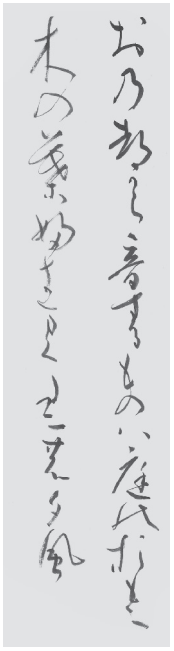

玉弥 玉置やよい

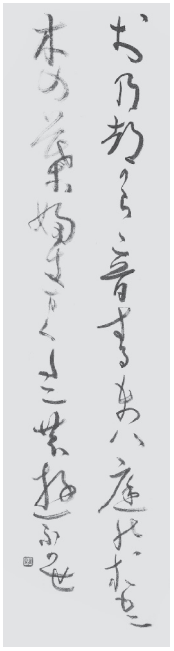

青梅 奥住 典子

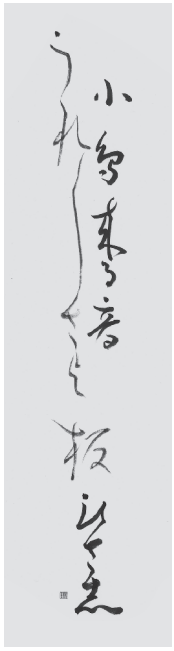

永岳 北出 愛

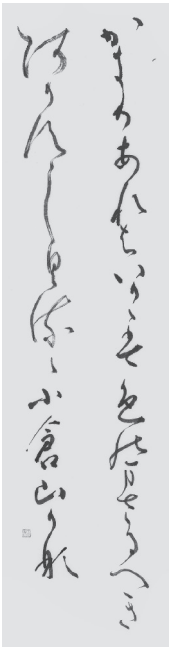

いち 榊原由紀子

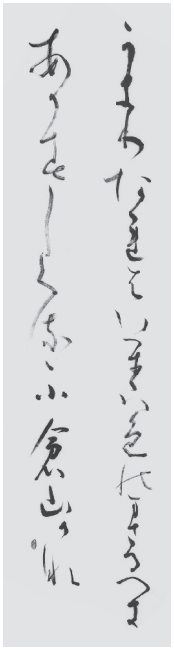

湘花 阿部のりこ

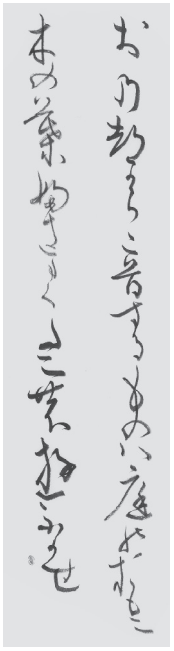

書学 大杉 マサ

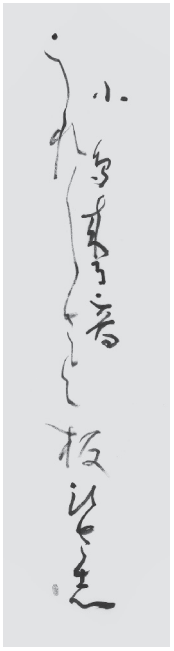

香竹 三宅 有里

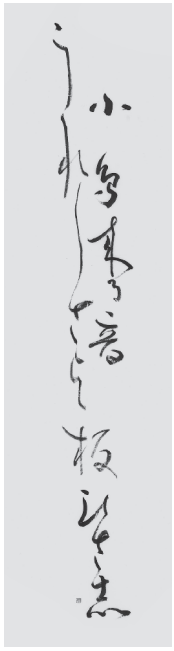

書学 仲野 美香

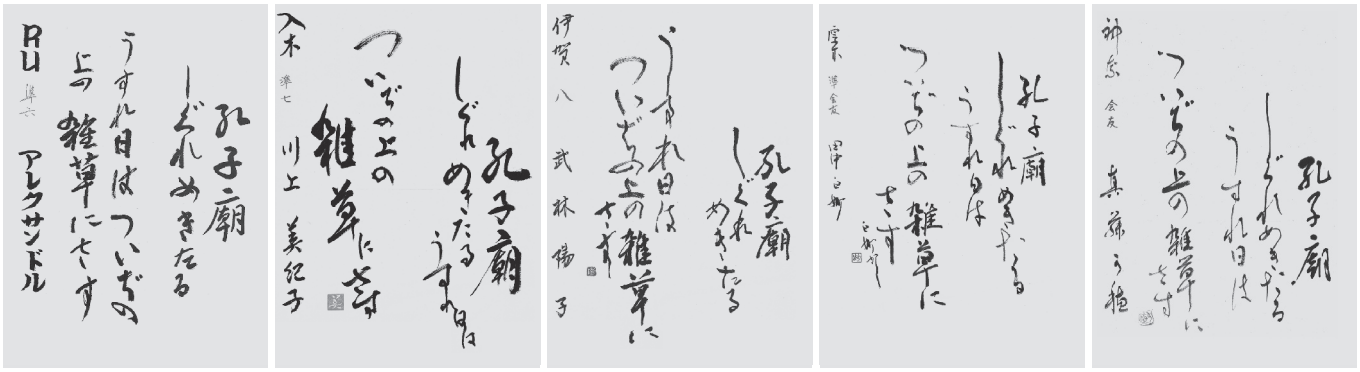

狭山 山﨑 智子

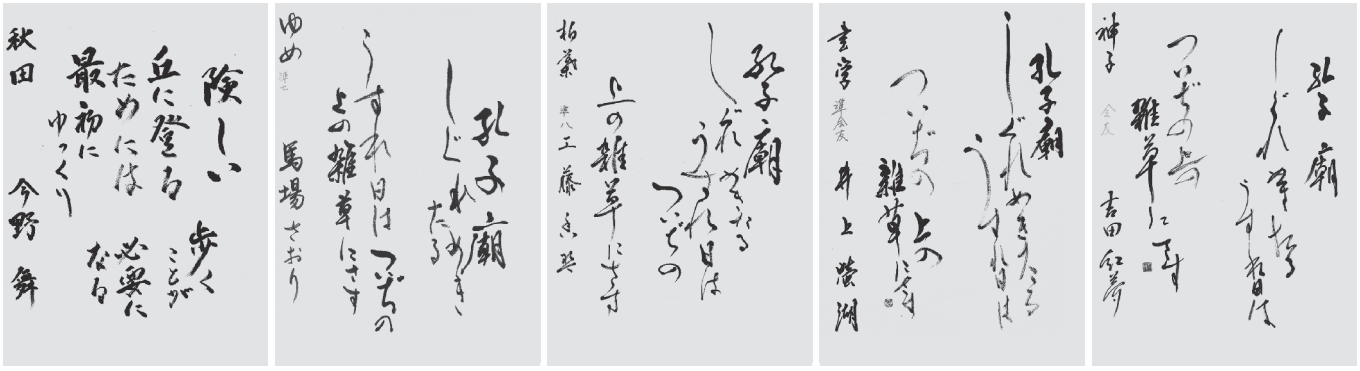

川書 田中 琇翠

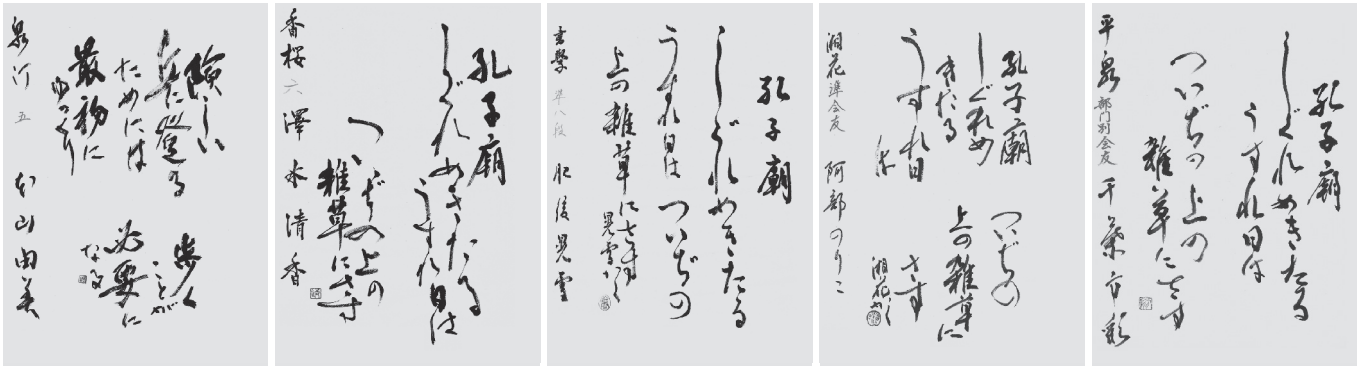

書学 細川 美帆

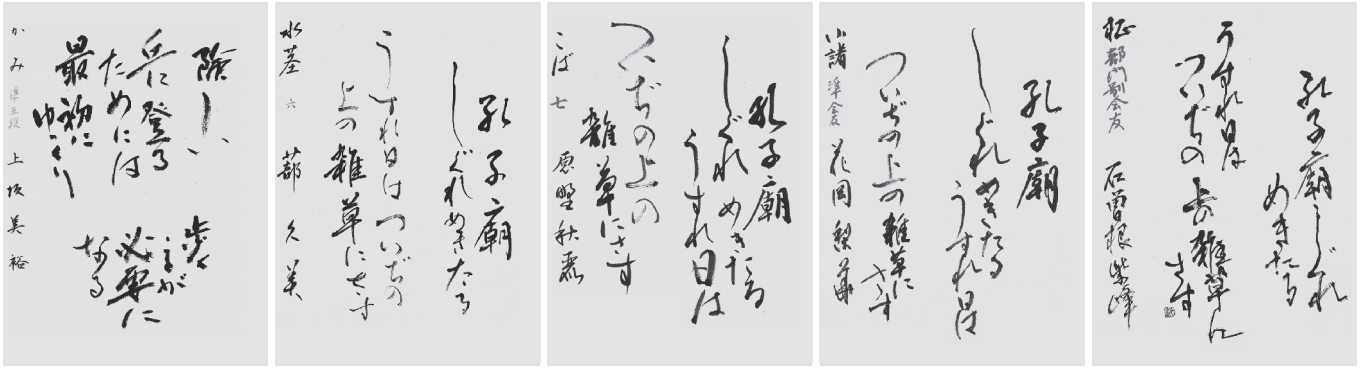

書学 唐木真理子

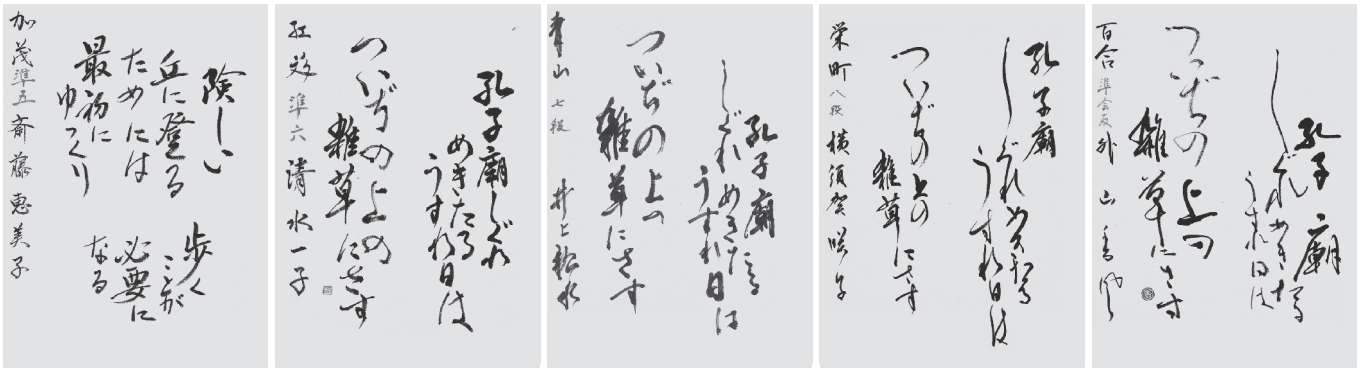

桃林 小澤 椿邨







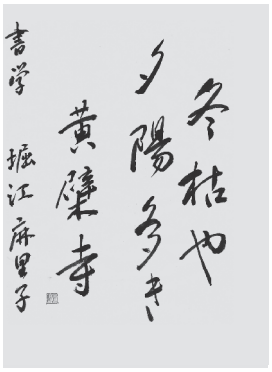


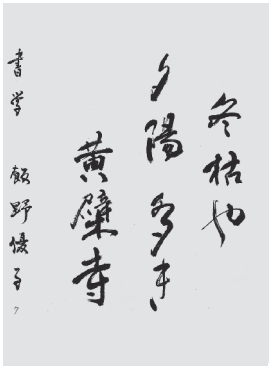


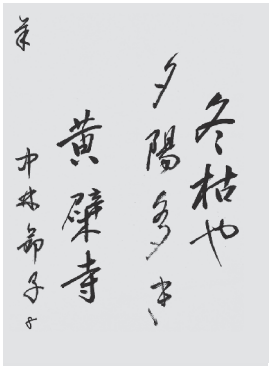
今月の優秀作品

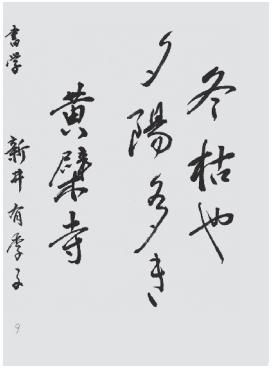
新和様半紙

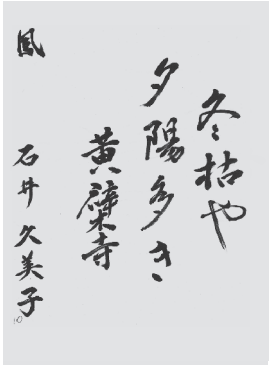


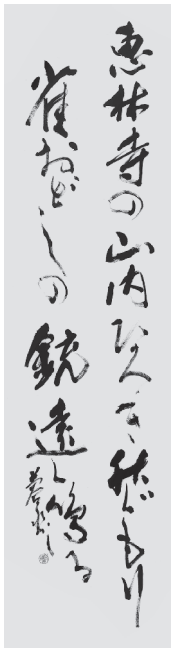

冬枯や
夕陽多き
黄檗寺
書学　堀江麻里子

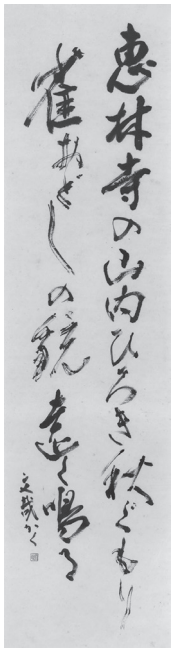

冬枯や
夕陽多き
黄檗寺
書学　飯野悟子

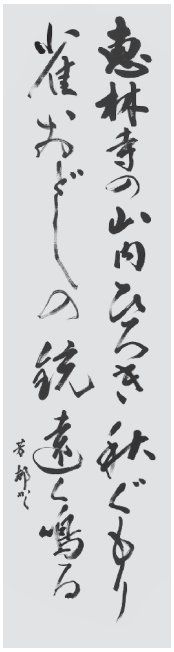

冬枯や
夕陽多き
黄檗寺
東　中林節子

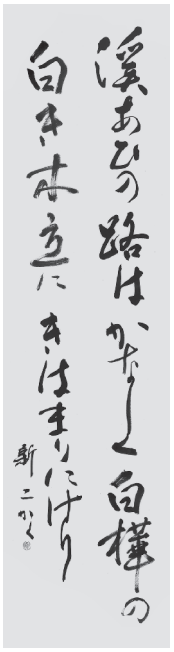

冬枯や
夕陽多き
黄檗寺
書学　新井有季子

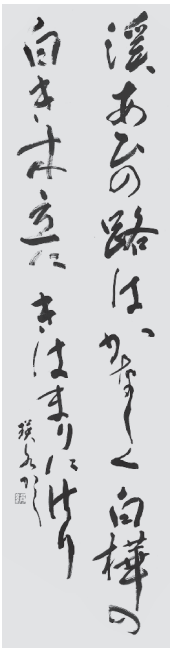

冬枯や
夕陽多き
黄檗寺
風　石井久美子

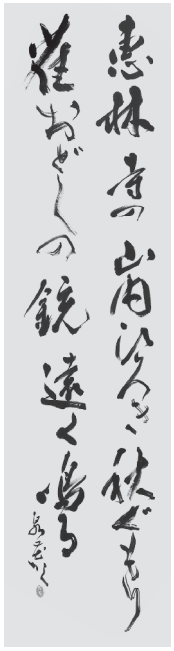

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
神奈　坂下　蓉水

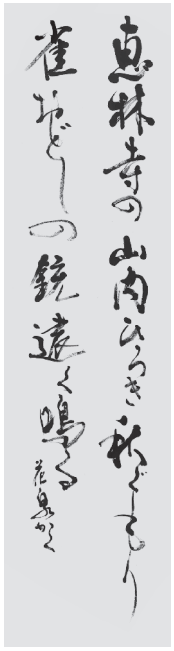

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
容弘　岩井　文哉

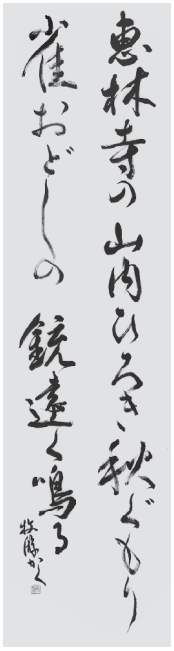

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
小諸　篠原　智巨

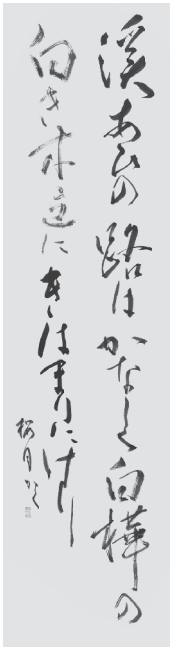

渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
書学　槻木　新二


渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
伊賀　奥谷　絹代

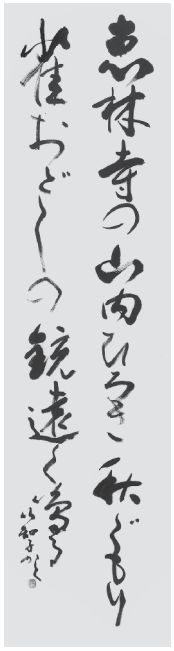

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
泉花　丸山　泉花

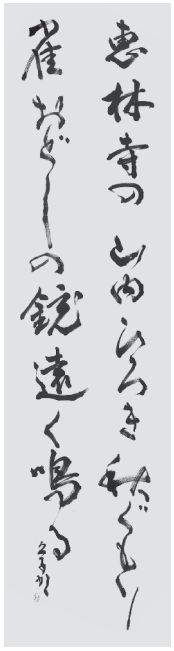

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
恵那　可知　花泉

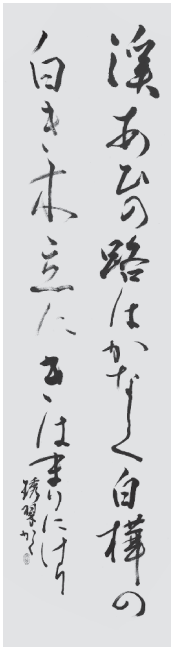

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
游山　牧岡　牧子

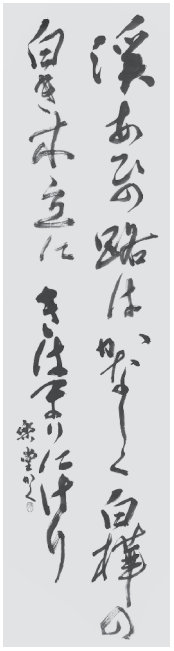

渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
書学　冨田真実子

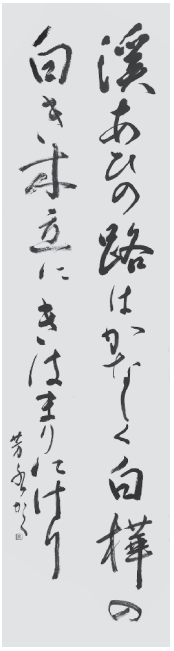

渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
唐羽　井上　潔


恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
水茎　大井以知子

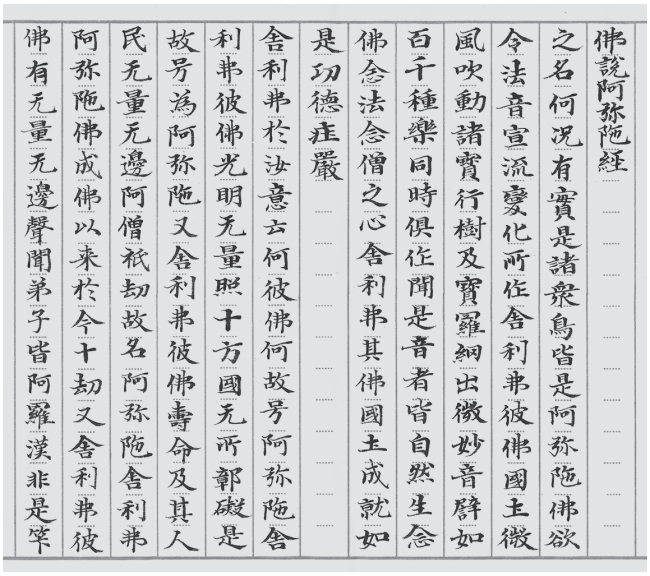

恵林寺の山内ひろき秋ぐもり
雀おどしの銃遠く鳴る
長野　岸　久子


渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
川書　田中　琇翠

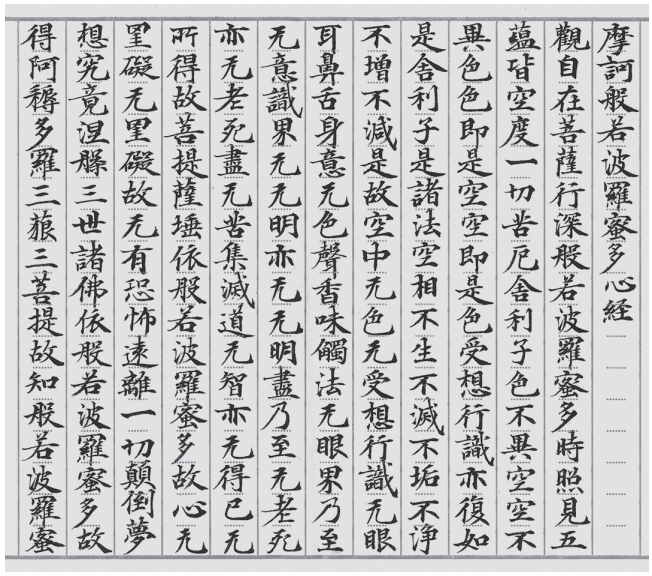

渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
九書　木下　楽堂


渓あひの路はかなしく白樺の
白き木立にきはまりにけり
芳水　柴原かおる

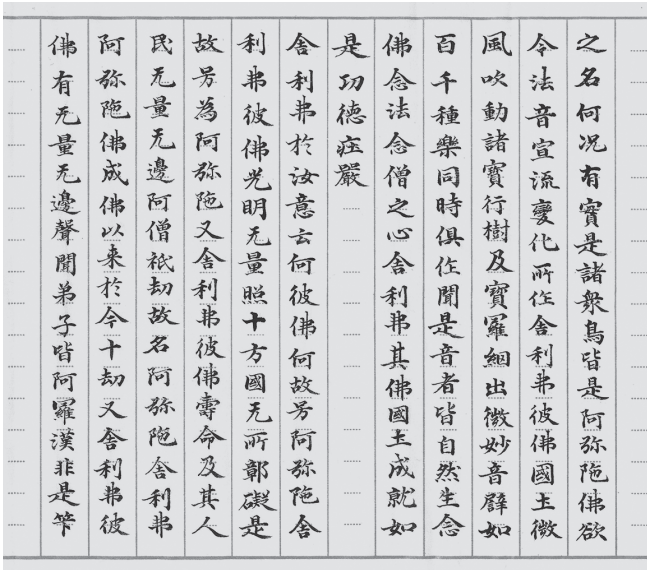
細　字


佛說阿弥陁經
之名何況有實是諸衆鳥皆是阿弥陁佛欲
令法音宣流變化所作舍利弗彼佛國土微
風吹動諸寶行樹及寶羅網出微妙音譬如
百千種樂同時俱作聞是音者皆自然生念
佛念法念僧之心舍利弗其佛國土成就如
是功德莊嚴
舍利弗於汝意云何彼佛何故号阿弥陁舍
利弗彼佛光明无量照十方國无所罣礙是
故号為阿弥陁又舍利弗彼佛壽命及其人
民无量无邊阿僧祇劫故名阿弥陁舍利弗
阿弥陁佛成佛以来於今十劫又舍利弗彼
佛有无量无邊聲聞弟子皆阿羅漢非是算

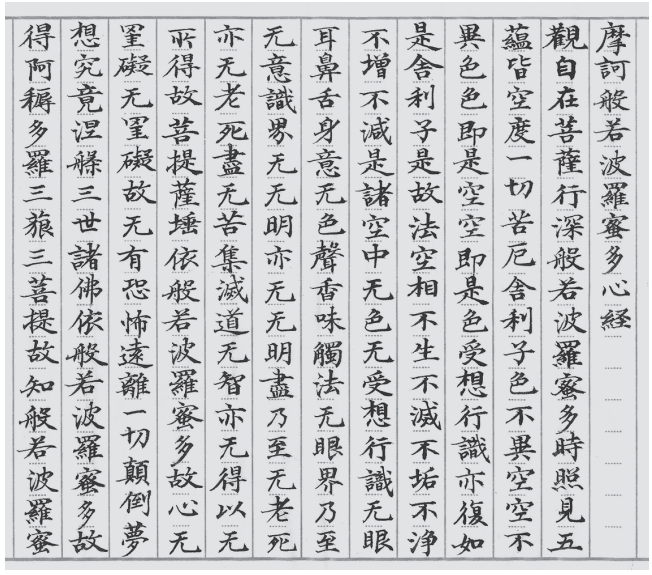
佐野　千葉　悦子


摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得已无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学　棚田　恵子


之名何況有實是諸衆鳥皆是阿弥陁佛欲
令法音宣流變化所作舍利弗彼佛國土微
風吹動諸寶行樹及寶羅網出微妙音譬如
百千種樂同時俱作聞是音者皆自然生念
佛念法念僧之心舍利弗其佛國土成就如
是功德莊嚴
舍利弗於汝意云何彼佛何故号阿弥陁舍
利弗彼佛光明无量照十方國无所罣礙是
故号為阿弥陁又舍利弗彼佛壽命及其人
民无量无邊阿僧祇劫故名阿弥陁舍利弗
阿弥陁佛成佛以来於今十劫又舍利弗彼
佛有无量无邊聲聞弟子皆阿羅漢非是算

九書　山崎美須子


摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是故法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是諸空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学　棚澤　一浩


摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

岩手　渡辺　泰安


摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学　安田　朋未

規定「逍遙遊」

審査評―秋山　凌雲

書学　石井　孝夫

外郭は変化に富む封泥調。金文で配した「遊」字の「子」に躍動感があり情趣ある作。



水茎　武藤　美栄子

乱れのない篆書が美しく、重複する「之繞」を畳点で処理した章法も見事。落ちついた風格を備えた作。



大森　谷　拓弥

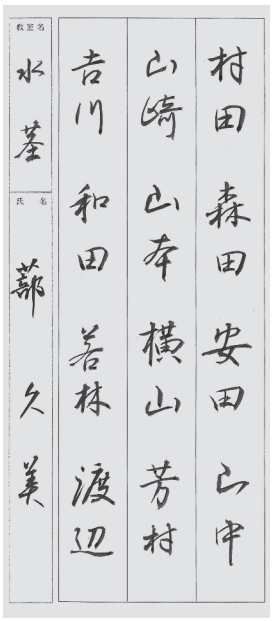
力強い刀法で満白の漢印を表現。「遊」字の併筆による白い部分がこの印の特徴であり、見応えのある作となった。

随意「明察果断」

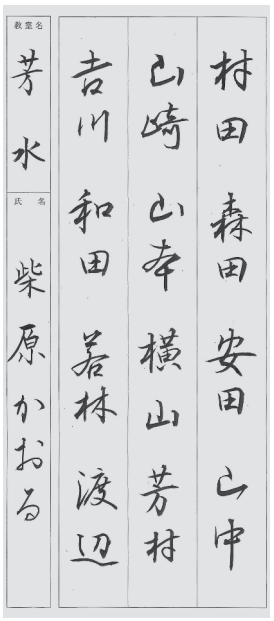


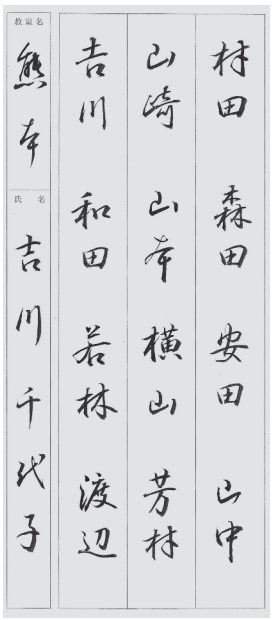
書学　髙見　敏久

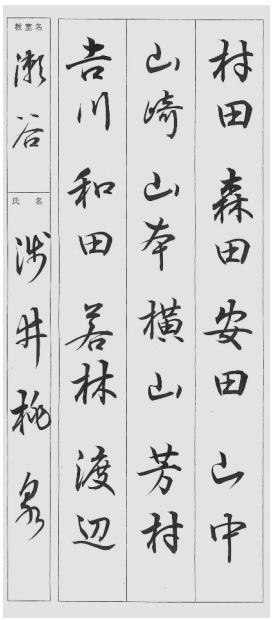
確かな刀法で刻された満白印。綺麗にまとまり過ぎた感があるものの、安定感があり安心して見られる秀作である。

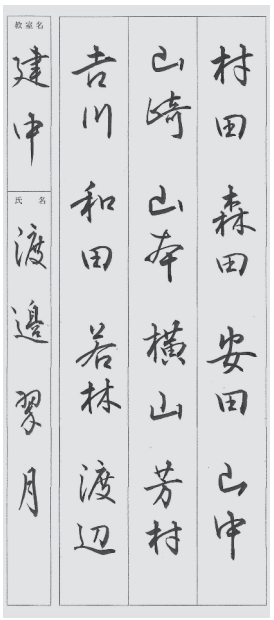


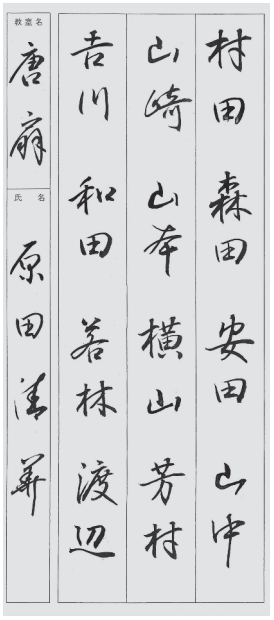


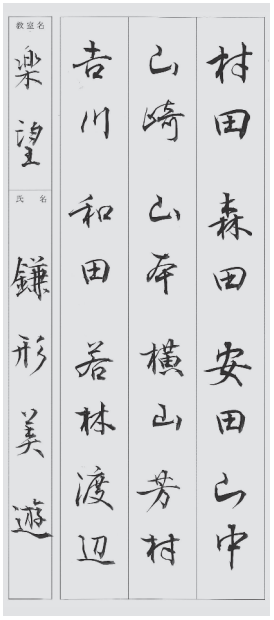












一字書

規定

（籬）

「离」の草略に疑わしい筆順の形成、「隹」の縦画の欠如が散見されました。



伊賀　石田　春代　淡墨表現で軽妙で鋒先の動きは明快である。ちょっと沈んだ墨色を出す工夫に心掛けたなら線も造型も更に光るかも。



仙水　天艸久美子　線条の流動は筆圧の強弱の変化が自在に絡み合い、線質は錬れている。引き締めた造型は強い。一画目は表現過多の気負い込みかな？



清和　大橋　信之　一画一画は入念の表現で、線質は強く活力豊かで深い。筆脈を休める筆致の技法造型に線の傾きの変化を見せ、小細工のない素朴性に富む。



神子　吉田　紅夢　活発で忌憚のない筆捌きで、字形の表情は多彩な動きで軽快美を見せた。筆脈一貫した線条のリズムは印象的である。

審査評―立川　井梧

随意

（も）

漢字「毛」の草書体による造型表現が目立ちました。



きし　根来佐枝子　漢字「毛」草書体とした運筆の呼吸は静動の調和を見せる。茶淡墨の色合いと透明感は情趣と気品に満ちた作。



愛山　大谷　美城　かな調の字形は、構成の表現に力強く暢びやかで筆圧の変化も見せた運筆が相俟って見事。最終画は連綿の要領で思い切りよく躍動を表現した。



兵庫　絹川　佳苑　意図とした草書体の骨格は、筆勢の表現停止を心掛け沈着で安定している。青墨の墨色作品として綺麗な滲みの強さは光彩を放つ。



ＭＭ　日山　貴子　等筆圧に同調した運筆速度の字形は渋く沈着である。収筆の払から押印の位置は余白を巻き込み実に見事である。